



説教要旨「半信半疑なわたしでも」

ルカによる福音書 24章 13～27節

二人の弟子がエルサレムを離れてエマオを言う町に向かう途上での出来事です。彼らは歩きながらエルサレムでの出来事について話し合っていました。

「イスラエルを解放」(21節)して下さるはずのイエス様が十字架につけられて処刑された出来事は、彼らにとって“敗北”以外のなにものでもありませんでした。イエス様がエルサレムに上ろうとされた時、彼らは、いよいよ救いの時が来たのだと思い、喜んだでしょう。しかし、彼らの抱いていたローマの支配からの解放独立の希望は潰えたのです。

彼らはこの日の朝、仲間の婦人たちから墓からイエス様の遺体がなくなっていたことと、そこでイエス様が復活なされたことが告げられたことを聞かされていましたが、イエス様の復活を信じることができず、「二人は暗い顔」(17節)のまま、失意の内にエルサレムを離れ、エマオへと向かっていたのです。

イエス様の復活知らされても、その言葉を信じることができず、それゆえに希望を打ち砕かれ絶望の中で暗い顔をして論じ合いつつエルサレムを離れ去ろうとして歩いているこの二人の弟子たちの傍らに、復活なさったイエス様は現れました。彼らは目が遮られていて分からなかったけれども、生きておられるイエス様が、既に共に歩んで下さっていたのです。そして、「物分かりが悪く、心が鈍い」(25節)彼らのために、聖書全体にわたって説き明かしをされたのです。

苦しい時、悲しい時、困難に直面している時、わたしたちの目はさえぎられていて、まるで神様に見放されたかのように感じてしまいます。しかし、そんなわたしたちの隣に、復活されたイエス様は来てくださって、一緒に歩いてくださるのです。そして、イエス様の言葉を聞いても、実は半信半疑。心の底から信じ切ることのできないわたしたちに、忍耐強く、何度も何度も、聖書に記されている神様の救いを指し示して下さるのです。

こんなにも物分かりが悪くて、心が鈍いわたしたちのことを、それでも見捨てずに、イエス様と一緒に歩いてくださっているのです。